

教えて！ 推進委員 さん

「男女共同参画社会」ってなに??

※「参画」には「参加」するだけでなく、政策や事業などの計画に積極的にかかわっていく意味があります。

1 全ての人にとって、とても身近なものなのです

「男女がお互いを尊重し合い、職場・学校・家庭・地域などの社会のあらゆる分野で、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮し、喜びや責任を分かち合うことができる社会」のことで、皆さんの生活に大きく関係しています。

2 当たり前と思っていることが実は「思い込み」かもしれません

あなたは「男性は仕事、女性は家庭」という価値観を持っていませんか？

こうした性別を理由として役割を決めてしまう「固定的性別役割分担意識」は、男性・女性の役割分担が当たり前だと思い込んでいるため、自分では気づきにくいことが特徴です。まずは自分の中の偏見に気付くことが重要です。

3 「SDGs」にも大きく関係しています

SDGsは、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現のために、2015年国連サミットで採択された国際目標で、17のゴールで構成されています。

ゴールの一つである「ジェンダー平等」は、ひとりひとりの人間が、性別にかかわらず、平等に責任・権利・機会を分かちあい、あらゆる物事を一緒に決めることができることを意味しています。

★出前講座を利用してみませんか★

身近なジェンダーバイアスやSDGsの視点を物語にして発表します。男女共同参画社会について考えるきっかけ作りに是非ご利用ください。

※メニューは2種類

- ① ジェンダーに敏感な視点で日常をみる { part1あずまちゃん誕生～婚約編
part2結婚～自治会編
- ② SDGsに敏感な視点で日常をみる ～カノさん家の日常とSDGs～

★★★お問合せ先：甲府市人権男女参画課 055-237-5209 ★★★



私たちの物語に出てくる

★ワード紹介★

「ジェンダー」

「LGBTQ」

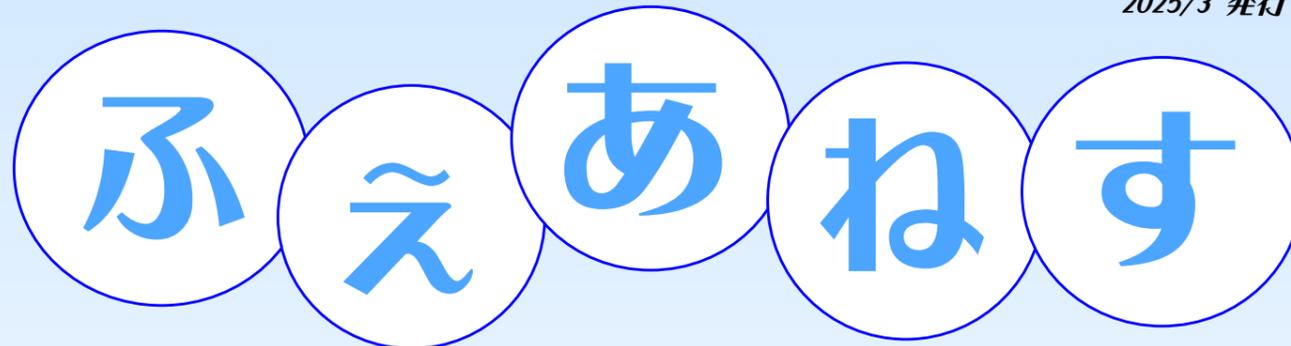
「フェアトレード」

「ワークライフバランス」

「農福連携」

「持続可能な活動」

気になる「ワード」は
出前講座でチェック



「ふえあねす」 = 「fairness」は英語で、公平性や公正さを意味します



委員長 小田切 進

第9期男女共同参画推進委員会は、各自治会連合会、各種団体からの推薦及び公募参加を合わせた31名が令和6年5月に甲府市から委嘱されスタートしました。

今期は4つのグループを設け、事業の企画運営を分担して行い、各自が責任を持って活動に携わるとともに、より良い活動になるようグループ内で意見を出し合っています。

また、コロナ禍がひと段落したこともあり、各地域・団体から要望を受け、推進委員会が作成しました男女共同参画に関わる物語を披露させていただく機会が増えました。このような活動を行うことで今期初めて委員になられた方も、市民の皆様から男女共同参画についての気づきをいただき、課題に向き合うよい機会となっていると感じています。

これからも第9期甲府市男女共同参画推進委員会一丸となり推進活動に邁進してまいります。

企画運営Aグループ
リーダー酒井です
パネル展・街頭啓発を
担当しています



企画運営Bグループ
リーダー山田です
甲府大好きまつり・フォーラム・
活動発表を担当しています

企画運営Cグループ
リーダー矢崎です
出前講座・
ぴゅあフェスティバル発表を
担当しています

広報編集グループ
リーダー中村です
広報こうふ記事・ふえあねす・
活動報告書の作成を
担当しています



令和6年度推進委員会の活動の様子はコチラ➡



「裾野を広げる」活動を

古屋美代

2023、24年の甲府市男女共同参画フォーラムに観客として参加し、初めて委員会の活動を学びました。

今年度、委員に選ばれ半年が経ち、6月の「男女共同参画週間」でのパネル展と街頭啓発、10月の「甲府大好きまつり」への出展、11月の「女性に対する暴力をなくす運動」期間でのパネル展等の活動をしてきました。中でも甲府大好きまつりで「ジェンダー視点からみた防災」のクイズを実施し、たくさんの人にその重要性を説明した時に手応えを感じました。大切なことは「裾野を広げる」こと。委員として勉強したことを地域の多くの人達に知ってもらい理解を深めてもらうことだと思いました。こうした活動は一人でやることは難しいので、推進委員として、地域の方々と手を携えて「裾野を広げる」活動をしていきたいと思っています。

「甲府市男女共同参画推進委員になって」

赤池まゆみ

地区の自治会連合会長から依頼を受け推進委員の活動が始まりましたが学ぶことの多さに驚いています。

「ジェンダーに敏感な視点で日常をみる」「SDGsに敏感な視点で日常をみる」などをテーマとした出前講座に参加する度、地区代表としてできることが何かを考えさせられます。

ある地区での出前講座の際、予想以上に多くの意見や質問を受け、こんなにも熱心に取組んでいる地区があることに感銘を受けました。自分の地区の皆が、自分ごととして取り組んでもらうためにはどうすればよいのか考えると、このような活動に対する責任の重さを感じました。今後も、身近な方々へ男女共同参画推進委員の活動を通じて、男女共同参画社会についてご理解いただけるよう微力ながら尽力していきたいと思っています。

「第34回甲府大好きまつりでの推進活動」

山田千恵美

第34回甲府大好きまつりでは、参加した推進委員20名で「ジェンダーの視点からみた防災」と「DV・デートDV」についてのクイズをブース来場者に説明をしながら、解いてもらうことで男女共同参画への理解を深めてもらうことができたと感じています。クイズに回答した方には、ガラポン（福引）をしていただき景品と啓発用の資料をお渡ししました。用意した資料500部は全て配布することができました。

大勢の方が集う場所での啓発活動は難しい点もありますが、クイズを通しジェンダー視点の防災やDVについて「知らなかったよ」との声もいただき、もっと多くの方に啓発することを継続し活動していくことの大切さを実感しました。

「男女共同参画推進フォーラム（NVEC）に参加して」

内藤洋子

日本は1985年に「女性差別撤廃条約」を批准。その後、1999年に国連で採択された女性差別撤廃条約の選択議定書に、日本は批准していません。「女性差別撤廃条約実現アクション」をスタートさせ活動している講師のお話で、差別の状況と今後の方向性を学びました。現在、地方から女性差別撤廃条約選択議定書の早期批准を求める要望書を各地の女性たちがアクションを起こしており、山梨県では甲府市を含む8市3村が採択していることを学びました。まだまだ男性中心の日本の政治、司法の場での差別、教育、地方自治体のあり方など、課題が山積していると実感しました。シンポジウムでは、U-30世代の3人の女性の活動報告があり、男女と一緒に、暮らしやすい社会を模索して活動している事が発表されました。しかし、これらはほんの一部。男性がもっとこの活動に参加し、差別撤廃は自分の事として考えないと、次のステップには進めないと感じました。

男女共同参画週間
パネル展準備の様子



男女共同参画週間について
マイクで呼びかけながら
資料を配布しています



9月の出前講座は過去最多の参加者が集まりました！
意見交換は大いに盛り上がりました

女性に対する暴力をなくす運動期間は
武田信玄公像がパープルにライトアップされています



DV・デートDV防止のパネル展準備と
パープルリボンツリー設置の様子



ぴゅあフェスティバル2024ではパネル展示と
「SDGsに敏感な視点で日常をみる」の物語を
披露しました



活動 Schedule

